

平成 21 年度からの新県立大学全学英语教育

I. 全学英语科目について

1.1 完成時 時間割とクラス数

	月	火	水	木	金
1	①「英語 I」 English for Academic Studies (外語) (200 人 6 クラス)	②「英語 II」 English for Interaction (日文・教福・情報) (280 人 9 クラス)	後期「英語 I」 (看護)45 人	①「英語 II」 English for Academic Studies (外語) (200 人 6 クラス)	②「英語 I」 English for Interaction (日文・教福・看護・情報) (370 人 11 クラス)
2	①「英語 II」 English for Interaction (外語) (200 人 6 クラス)	②「英語 I」 English for Academic Studies (日文・教福・情報) (280 人 9 クラス)	後期「英語 I」 (看護)45 人	①「英語 I」 English for Interaction (外語) (200 人 6 クラス)	②「英語 II」 English for Academic Studies (日文・教福・情報) (280 人 8 クラス)
3		「英語 III」 (全学部) 3 クラス		後期「英語 I」 (看護)45 人 英語 III」 (全学部) 3 クラス	
4				後期「英語 I」 (看護)45 人	

- ・ 1 クラス平均 35 人、
- ・ CASEC によるクラス分け

1.2 「英語 I」「英語 II」「英語 III」の科目の概要

(設置認可申請書から)

英語 I

「英語 I は、高校英語を基礎として、日常的话题を中心とした多様な題材について、必要な情報を聞き取ったり読み取ったりする英語能力を総合的に獲得させ、さらに、得た情報・語彙・表現を用いて、自分の意思が正しく相手に伝わるように発信する技能を習得させることを目指す。必要に応じて英語音声や英文法の基礎知識の確認も行う。リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの 4 技能を関連づけながら向上させ、総合的コミュニケーション能力の基盤を養う」

英語 II

「英語 II は、英語 I を土台に、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの 4 技能の更なる向上を目指す。日常生活や社会・文化についての様々な題材を取り

上げ、必要な情報の聞き取りや読解に加えて、英語による意見の発表や質疑応答などの作業を行うことによって総合的に英語能力を発展させる。必要に応じて、適切な読みのストラテジーを用いて必要な情報を読み取る技能や、獲得した情報。語彙・表現を目的に応じてコミュニケーションに生かす技能を習得させることを目指す。このような授業を通して、様々な場面で臆せず英語でコミュニケーションを行う英語力の育成を図る。」

英語 III

「英語 III は、英語 II を土台に、取り扱う題材の領域を広げレベルを上げながら、総合的英語コミュニケーション能力の育成を目標とする。リスニング、リーディングではニュースや英語、雑誌記事などに用いられる自然な英語の聴解力、読解力を高めることを目標とする。一方、スピーキングやライティングでは、より複雑な知的テーマについて、説明、質疑応答、討論を行う力や、説明文、エッセイ、手紙、論文など多様なタイプのライティングスタイルを身につけることによって、発信型技能の向上を図る。」

1.3 週2回の特徴づけ

English for Academic Studies 時間割上は「英語 IA」「英語 IIA」	English for Interaction 時間割上は「英語 IB」「英語 IIB」
1年 ①月、②火 2年 ①木、②金	1年 ①木、②金 2年 ①月、②火
大学での勉学のための英語力養成 リーディングによる内容把握を中心に 一般教養的トピック→専門的すぎない (文化・言語・時事・科学・社会問題等)	コミュニケーション能力養成 英語でのコミュニケーション活動を通じて、 リスニング、スピーキングの力を高める
テキスト 担当者の選択、独創性による 学部特性を配慮することも可	テキスト※ 洋書系テキストなど、コミュニケーション 場面を想定したもの

※ 参考 平成21年度用シラバスでは、「英語 IA」「英語 IB」の授業目的、講義概要を、次のように原則的に統一して記載することとした。

「授業目的」(「英語 IA」「英語 IB」とも)

「英語 I では、高校英語を基礎として、日常的な話題を中心とした多様な題材について、必要な情報を聞き取ったり読み取ったりする英語能力を総合的に獲得させ、さらに、得た情報・語彙・表現を用いて、自分の意思が正しく相手に伝わるように発信する技能を習得させることを目指す。」

「講義概要」

「英語 IA」の場合

「英語 IA は、English for Academic Studies として、大学初年次の知的関心に応じた多様な題材から、必要な情報を正しく読み取ったり聞き取ったりする英語能力を涵養し、さらに、得た情報・語彙・表現を発信に使える技能を習得させる。」

「英語 IB」の場合

「英語 IB は、English for Interaction として、多様なコミュニケーション場面で

必要なスキルを習得させる。4技能を関連づけながら向上させることを目指すが、特にリスニング、スピーキング能力の涵養に重点を置き、音声英語によるコミュニケーション能力の基盤を養う。」

1.4 1年生用クラス分け

- ①外語 月1、木2、 [6] 上級2、標準4
 ②日文・教福・看護・情報 金1、 [11] 上級1、標準8、基礎2
 日文・教福・情報 火2、 [9] 学部ごとに上級1、標準2

※ 標準クラスについては、成績順による輪切りではなく、該当者グループ内で均等になるようなクラス編成。

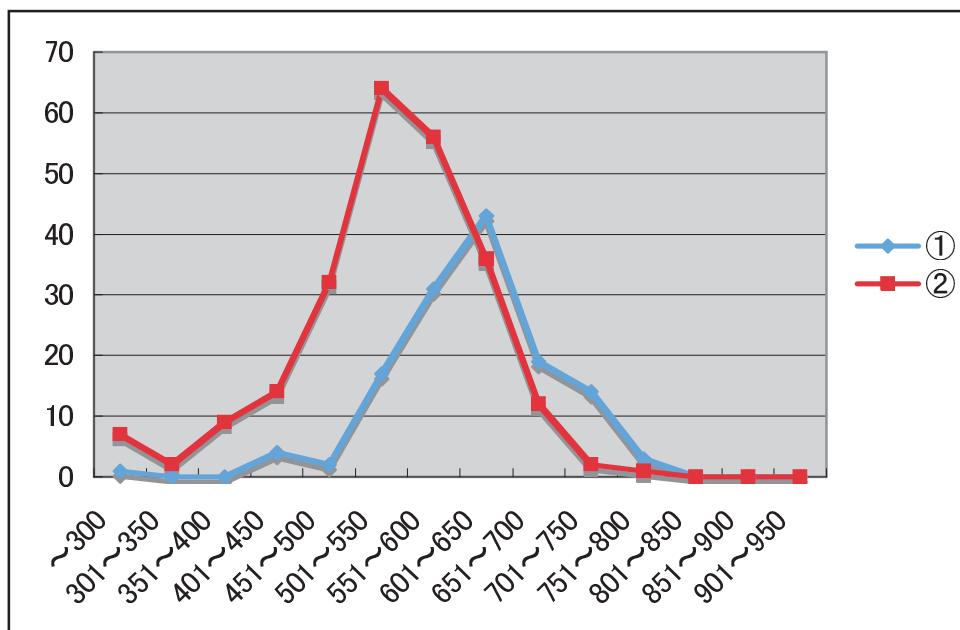
English for Interaction

上級 650点以上 (TOEIC 625点相当)、 英語使用率 75%～100%
 標準 451点から650点 英語使用率 50%～80%
 基礎 450点未満 (TOEIC 375点相当) 英語使用率 約 50%

参考資料 CASEC10月全学一斉受験1年生昼

	～ 300	301 ～ 350	351 ～ 400	401 ～ 450	451 ～ 500	501 ～ 550	551 ～ 600	601 ～ 650	651 ～ 700	701 ～ 750	751 ～ 800	801 ～ 850	851 ～ 900	901 ～ 950	計
①	1	0	0	4	2	17	31	43	19	14	3	0	0	0	134 人
②	7	2	9	14	32	64	56	36	12	2	1	0	0	0	235 人

- ① 外国語学部(英米を除く)
 ② 文学部(英文を除く)・情報科学部



1.5 English for Interaction のテキストについて

- ・洋書系テキスト等の使用について

1年	<p>Pre-Intermediate レベル(TOEIC 380)、 Lower Intermediate レベル(380-450)</p> <p><Pearson Longman> <i>Top Notch 2, Side by Side 2 or 3, New Cutting Edge Pre-Intermediate,</i> <Oxford> <i>American Headway Level 2, New Headway Pre-Intermediate,</i> <Cambridge> <i>face2face Pre-Intermediate, Interchange Level 2, Touchstone Level 2</i> <Cengage Learning> World Link 1 <金星堂/Cambridge> <i>Activate Your English Pre-intermediate</i> <成美堂> <i>World Interviews</i></p>
2年	<p>Intermediate レベル (450-650)</p> <p><Pearson Longman> <i>Top Notch 3, Summit 1, Side by Side 4, New Cutting Edge Intermediate,</i> <Oxford> <i>American Headway Level 3, New Headway Intermediate,</i> <Cambridge> <i>face2face Intermediate, Interchange Level 3, Touchstone Level 3</i> <Cengage Learning> World Link 2 or 3</p>

- ・ クラス分けの基準から見ると多少低めの設定。しかし洋書系テキストに慣れていないことを考えると、当面この程度のレベルを「標準」用に設定して良いように思われる。(金星堂/Cambridge の *Activate Your English* は、Pre-Intermediate Coursebook を1年次用として2009年度より出版。オリジナル+日本で使いやすいように追加練習問題)
- ・ 出版社・コースブックにより同じレベル設定でも、難易度に差がある。上のレベルに準じて、担当者が選択する。

- ・ 基本的に洋書系テキストは、多くの内容が盛り込まれている。
上級クラスは、テキストをほぼ全体カバーし、かつ、余裕がある場合は、ビデオ教材や英字新聞からの記事など適宜教材を追加する。
標準クラスは、テキストの内容や練習問題のうち、主要なものをカバーする。
基礎クラスは、Elementary レベル(または Beginner レベル、Upper Beginner レベル)のものを選び、必要に応じて日本語を補いながら、文法基礎事項や基本語彙を習得させる。
- ・ 上記テキストは通年用であるため、前後期で担当者が替わる場合には、前半・後半でユニット数を分ける。仮に前期終了を待たずに前半のレッスン・ユニットがすべて終了していても、後期部分には入らずに、追加教材(ビデオ・英字新聞記事・ベストセラー一節等)を用いる。
- ・ 洋書系テキストを使用する場合は、高等言語教育研究所・英語部門の予算から、Teacher's Manual, DVD 教材、Workbook 等必要なものは購入し、共有して使用する。英語教育共同研究室(E406)に保管する。
- ・ 上の表にもあるように、近年は日本の出版社からも英語コミュニケーション能力養成のためのテキストが出版されているので、参考にされたい。

1.4 プレイスメント・テストと評価

- 21年度から、習熟度に応じたクラス編成をすることになり、プレイスメント・テストを実施することになった。当然評価にも習熟度は反映されるが、単に、プレイスメントテストの成績のみで、最終成績が決まるわけではない。
- 基本的な考え方として、「プレイスメントテスト」は、学習者の習熟度に応じた、より効果的な学習環境を提供するために行うものである。
- 教授者が、授業を通じて学生の英語力の養成を図り、平常点・課題・定期テスト等に基づいて行う評価は、その授業を通じての学生の英語力の伸長を測るものであり、重要な意味を持つ。
- 「英語A」については、従来通り、教授者による評価のみで行う。
- 一方、英語コミュニケーション能力の養成を重点とする「英語B」においては、プレイスメント・テストだけでなく、学期末に何らかの統一のアチーブメント・テスト(21年7月はCASEC利用)を実施し、その成績を評価に組み入れることにする。慎重に議論した結果、当面、統一テストによる成績を50%、教授者が付ける成績を50%として学期の最終評価とする。ただし、今後も検証と議論を続ける。

※ 参考 平成21年度用シラバスでは、「英語IB」の「評価」を、次のように原則的に統一して記載することとした。

「統一テストによる評価 50%、教授者による評価 50%」—この後に、各教授者が自身の評価の内容(例えば、出席、授業参加度、課題、定期テストなど)を記載する。

2. 平成 21 年度の全学英語科目

2.1 平成 21 年度 時間割とクラス数

	月	火	水	木	金
1	①「英語 I」 English for Academic Studies (外語) (200 人 6 クラス)	「英語インター ミディエイト II」 (文・情) 6 クラ ス	後期「英語 I」 (看護)45 人	「英語インター ミディエイト II」(外語) 4 ク ラス	②「英語 I」 (日文・教福・看 護・情報) (370 人 11 クラス) English for Interaction
2	「英語インター ミディエイト II」(外語) 4 ク ラス	②「英語 I」 English for Academic Studies(日文・教 福・情報) (280 人 9 クラス)	後期「英語 I」 (看護)45 人	①「英語 I」 English for Interaction (外語) (200 人 6 クラス)	「英語インター ミディエイト II」(文・情) 6 クラス
3		「英語アドヴァ ンスト」(全学部) 3 クラス		前期「英語 I」 (看護)45 人 --- 「英語アドヴァ ンスト」(全学部) 3 クラス	
4				前期「英語 I」 (看護)45 人	
5					
6		「英語インター ミディエイト I」 再履 (文) 1 クラス	「英語インター ミディエイト II」(外語) 2 クラス 「英語アドヴァ ンスト」(全学部) 1 クラス		「英語インター ミディエイト I」 再履 1 クラス
7		「英語インター ミディエイト II」(文) 2 クラス	「英語インター ミディエイト I」 再履 1 クラス		「英語インター ミディエイト II」(文) 2 クラ ス (外) 2 クラス 「英語アドヴァ ンスト」(全学部) 1 クラス

2008 年 12 月
外国語科目作業部会長
宮浦 国江